

今月はICO3月コーヒーマーケットレポートに加え、トピックス（1）としてエチオピア世界コーヒー会議での同国ハイレマリウム首相の開会挨拶及び（2）としてICO理事会資料として配られた『アフリカ諸国の農村における世代交代問題』の邦訳をお届けします。



コーヒー市場は5ヶ月振りの高値で推移した

2016年3月のコーヒー価格は、月末にかけて勢いを失ったというものの、強含みに推移した。これは、一部、コーヒーのファンダメンタルズの影響もあるが、主に幅広い商品相場の動きに影響されて上昇したものである（コーヒー以外の農作物にも同様な動きが見える）。今年度の輸出量は高水準を維持しており、これまでの輸出量は2014/15年度に比べて2%増えている。しかし、今後の可能供給量（特にロブスタコーヒー）については懸念が出ている。

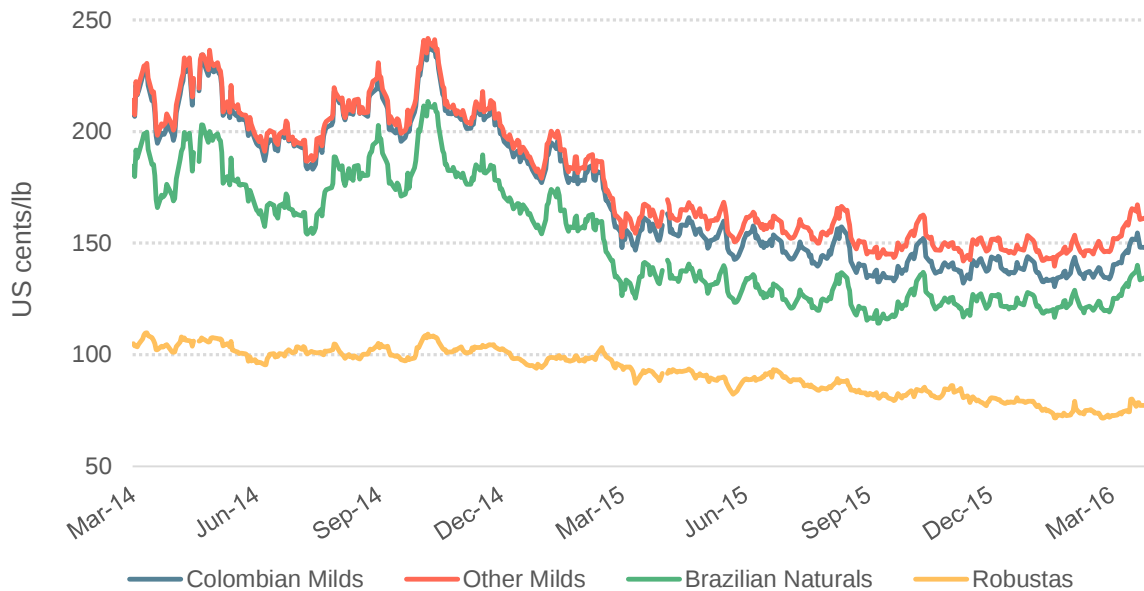
グラフ 1: ICO 日次複合指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

3月のICO複合指標価格の月間平均は、先月比5.4%上昇し、117.83米セントになったが、これは2015年10月以来の高値水準である。しかし、この価格は昨年3月平均価格の127.04セントに比べるとまだかなり低い水準である。日次複合指標価格は月初めの109.37米セントから22日に高値となる124.95セントを付け、月末には119.93セントまで下落した。

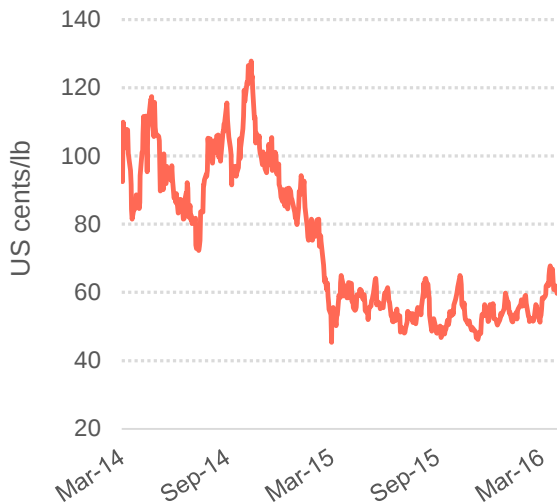
グラフ 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

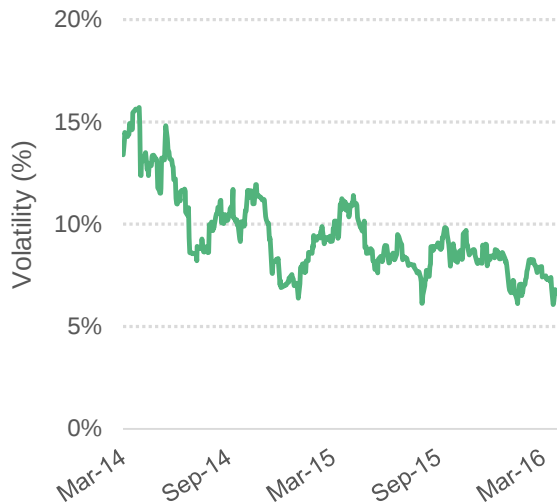
グループ指標価格については、3アラビカ全ての月間平均価格が上昇し、コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルは夫々、5.9%、6.6%、6.7%上がった。ロブスタグループは僅か2.1%しか上がらず75.6セントとなったが、昨年10月以来初めての上昇であり、2016年の月間平均価格としては最も高い水準となっている。さらにロブスタコーヒー価格は月末にかけて下げ渋ったが、これはロブスタへの供給懸念が価格をサポートしたからだと思われる。ニューヨークとロンドン先物市場のアラビカコーヒーとロブスタコーヒーのアービトラージは今年最大となる60.92セントまで広がった。

グラフ 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

グラフ 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率



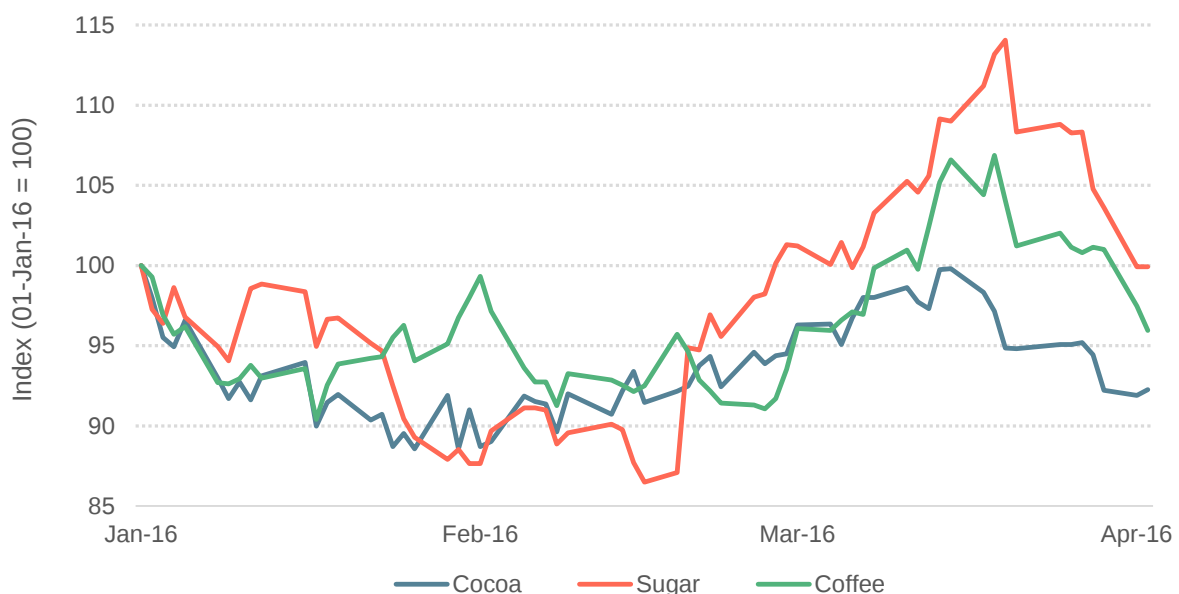
© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

2016年2月の総輸出量は1.7%増え9.2百万袋となったが、これはロブスタの輸出量が8.9%減ったにも関わらず、アラビカの輸出量が8.1%増えたことにより減少部分を上回ったことによるものである。これにより2015/16年度最初の5か月間（10月～2月）の累計輸出量は45.2百万袋となり、前年同期間に比べ2%増加した。特にブラジルは輸出が堅調（前年度比1.7%増）であり、コロンビア（10.3%増）、インド（15.3%増）、エチオピア（28.5%増）もそれぞれ増えた。一方、ベトナムとインドネシアの輸出量は夫々4%、34.9%減少したようである。

先行きを見ると、コロンビアの2015/16年度前期の生産量は7.3百万袋に達したようだが、エルニーニョによりもたらされた乾燥気候の影響で下期は減産になるとの懸念が出ている。報告によると乾燥気候によりコーヒーベリーボラー被害が増えているようである。乾燥気候はベトナムとブラジルのエスピリト・サント州にも悪影響を及ぼしているようで、ロブスタコーヒーへの供給懸念が今後価格を下支えする可能性が出てきている。

しかし、コーヒー市場が単独で動いているのではないということを肝に銘じておくべきである。即ち、過去3ヶ月を見ると、コーヒーの価格動向はグラフ5に見られるように、その他のソフトコモディティー（例えば砂糖、ココア）と同じような動きをしていることがよくわかる。それ故に、最近のコーヒー価格の動きは特にコロンビアやロブスタ生産地域の供給懸念への思惑が反映されたものだとも言えるが、幅広い商品相場の価格サイクルの影響を受けているということも事実だと言えるだろう。

グラフ 5: コモディティーの価格動向



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

* グラフは *Intercontinental Exchange* のココアと砂糖 11番及びコーヒー"C"先物市場の5月限月の価格動向を示している

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Mar-15	127.04	154.29	160.74	133.55	92.16	139.70	82.94
Apr-15	129.02	157.06	164.00	136.70	92.06	141.79	82.71
May-15	123.49	150.19	158.48	130.38	87.56	135.22	78.03
Jun-15	124.97	152.02	159.76	130.51	90.25	135.86	80.25
Jul-15	119.77	144.52	154.45	123.64	87.12	128.59	77.16
Aug-15	121.21	146.96	156.92	127.24	85.78	132.42	76.25
Sep-15	113.14	135.55	146.15	117.83	81.50	121.66	71.53
Oct-15	118.43	143.10	153.25	127.47	82.78	129.45	72.89
Nov-15	115.03	138.63	147.98	122.95	81.74	122.35	72.04
Dec-15	114.63	139.89	148.66	123.73	79.28	123.77	70.02
Jan-16	110.89	135.21	145.03	121.21	74.71	120.20	65.67
Feb-16	111.75	137.17	147.70	122.24	74.04	119.25	64.96
Mar-16	117.83	145.20	157.50	130.38	75.60	128.43	67.51
% change between Mar-16 and Feb-16							
	5.4%	5.9%	6.6%	6.7%	2.1%	7.7%	3.9%
価格変動率 (%)							
Feb-16	6.7	6.7	6.0	7.1	9.4	7.6	6.4
Mar-16	5.9	6.0	6.1	6.8	9.4	7.8	4.9
Variation between Mar-16 and Feb-16							
	-0.7	-0.7	0.0	-0.4	0.0	0.3	-1.5

* 第2及び第3限月の平均価格

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds	Colombian Milds	Colombian Milds	Other Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
Mar-15	-6.45	20.74	62.13	27.19	68.58	41.39	56.76
Apr-15	-6.94	20.36	65.00	27.30	71.94	44.64	59.08
May-15	-8.29	19.81	62.63	28.10	70.92	42.82	57.19
Jun-15	-7.74	21.51	61.77	29.25	69.51	40.26	55.61
Jul-15	-9.93	20.88	57.40	30.81	67.33	36.52	51.43
Aug-15	-9.96	19.72	61.18	29.68	71.14	41.46	56.17
Sep-15	-10.60	17.72	54.05	28.32	64.65	36.33	50.13
Oct-15	-10.15	15.63	60.32	25.78	70.47	44.69	56.56
Nov-15	-9.35	15.68	56.89	25.03	66.24	41.21	50.31
Dec-15	-8.77	16.16	60.61	24.93	69.38	44.45	53.75
Jan-16	-9.82	14.00	60.50	23.82	70.32	46.50	54.53
Feb-16	-10.53	14.93	63.13	25.46	73.66	48.20	54.29
Mar-16	-12.30	14.82	69.60	27.12	81.90	54.78	60.92
% change between Mar-16 and Feb-16							
	16.8%	-0.7%	10.2%	6.5%	11.2%	13.7%	12.2%

* 第2及び第3限月の平均価格

表 3: 輸出国の総生産量

Crop year commencing	2012	2013	2014	2015	% change 2014-15
TOTAL	147 953	146 615	141 376	143 371	1.4%
Arabicas	88 471	87 001	84 397	84 309	-0.1%
<i>Colombian Milds</i>	11 523	13 488	14 549	14 853	2.1%
<i>Other Milds</i>	29 017	26 822	25 896	27 244	5.2%
<i>Brazilian Naturals</i>	47 930	46 690	43 953	42 211	-4.0%
Robustas	59 482	59 614	56 978	59 062	3.7%
Africa	16 668	16 271	16 085	17 074	6.1%
Asia & Oceania	45 681	46 527	44 623	46 589	4.4%
Mexico & Central America	18 481	16 585	17 390	18 462	6.2%
South America	67 122	67 233	63 278	61 246	-3.2%

単位：千袋

Full production data are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 4: 輸出国の総輸出量

	February 2015	February 2016	% change	October - February		
				2014/15	2015/16	% change
TOTAL	9 055	9 211	1.7%	44 307	45 205	2.0%
Arabicas	5 665	6 123	8.1%	27 035	29 454	8.9%
<i>Colombian Milds</i>	1 151	1 225	6.5%	5 628	6 217	10.5%
<i>Other Milds</i>	1 949	2 114	8.5%	7 041	8 053	14.4%
<i>Brazilian Naturals</i>	2 566	2 783	8.4%	14 366	15 184	5.7%
Robustas	3 389	3 088	-8.9%	17 272	15 751	-8.8%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨーク及びロンドン先物市場の認証在庫量推移

	Mar-15	Apr-15	May-15	Jun-15	Jul-15	Aug-15	Sep-15	Oct-15	Nov-15	Dec-15	Jan-16	Feb-16	Mar-16
New York	2.60	2.56	2.41	2.43	2.38	2.36	2.28	2.15	2.08	1.95	1.82	1.76	1.62
London	2.84	2.93	3.02	3.12	3.35	3.43	3.43	3.37	3.35	3.31	3.23	3.04	2.92

単位：百万袋

表 6: 世界のコーヒー消費量

Calendar years	2012	2013	2014	2015	CAGR (2012-2015)
World total	143 348	148 003	150 339	152 149	2.0%
Exporting countries	44 441	45 445	46 494	47 292	2.1%
Importing countries	98 907	102 558	103 845	104 857	2.0%

CAGR: Compound Annual Growth Rate

単位：千袋

ートピックス（１）ー

エチオピアで開かれた第４回世界コーヒー会議の開会式で同国のハイレマリアム首相が挨拶した内容ですが、コーヒー生産国の立場がよく理解できると思います。

エチオピア首相（Mr. Hailemariam Dessalegn）の開会挨拶全訳

国家及び政府代表の皆様

アフリカ連合理事会議長代理：Erastus Mwencha 閣下

I C O 理事会議長：Ivan Romero Martinez 閣下

I C O 事務局長 Roberio Oliveira Silva 殿

世界各国団体代表の皆様

親愛なるコーヒー生産者、輸出業者、コーヒー関係者の皆様

紳士淑女の皆様

コーヒー生誕の地へようこそお出でくださいました。

アフリカ連合及び国際連合アフリカ経済委員会の所在地、アジスアベバ市で皆さまを温かくお迎えできるのは私にとって大変うれしいことです。第４回世界コーヒー会議にお出で頂きありがとうございます。

世界コーヒー産業の重要なステークホルダーである皆様にご出席いただき、この貴重な会議を主催できることを大変喜んでいます。アジスアベバの地でこの会議が開催されるということは我々にとり、また同様にその他の生産国や消費国にとっても特別な意味があると思います。

ここエチオピアでは、コーヒーは急いでカップを引っ掴んで流し込むという類の飲み物ではありません。この飲み物は我々にとっては飲料というより社会生活の一部なのです。この国に２～３日滞在頂ければ、強烈なコーヒー文化がエチオピア人としての自己同一性（Identity）にまで深く根差しているということをご理解いただけたと思います。エチオピア全土に亘り人々はコーヒーを飲むというだけではなく、独特といえるコーヒーセレモニーも行っています。

コーヒーは様々な形で我々の伝統や文化を反映していますが、コーヒー生産国の民である我が国の多くの国民の生活が懸かっており、その経済価値は我が国が発展するために重要な意味合いを持っています。我々の文化では誰かがおいしいコーヒーを提供した場合、そのコーヒーを点てた彼もしくは彼女は、１～２杯のおいしいコーヒーを楽しんだセレモニー

参加者から祝福を受ける習わしです。本日ここにご出席の皆様にあえてこの質問をしたい、即ち、『どの程度の祝福を、ここでの祝福は正当な報酬と置き換えてもいいですが、世界の人々が毎日飲んでいる 5000 億杯近いコーヒーカップを満たす為の労働を提供している農民が受け取っているのでしょうか？』と。残念ながら、答えは、非常に少ない額しか受け取っていないということではないでしょうか。原油の次に位置づけられる国際商品である、何十億ドルに上るコーヒー産業からコーヒー生産者が受け取る金額は僅かなものに過ぎないのです。

一生懸命働いているコーヒー農家が、慎ましくて安定した生活を維持するための正当な報酬をいかにして確保するかという重要な問題を議論するために、この会議は素晴らしい機会になることでしょう。我々は行動を起こすために具体的で現実的なアドバイス (recommendation) を必要としています。コーヒー販売金額を公正に分配するということはコーヒー農家や家族の生活を改善するというだけではなく、高品質生豆の持続可能な供給を維持するためにも重要なことだと思います。

小農家の貧困だけがコーヒー生産における脅威ではありません。温暖化、少雨化、耐性の強い病虫害の増加など全てがコーヒー産業を危うくしています。気候変動はコーヒー産業にとって深刻な脅威であり、気候変動の影響を最も大きく被るのは小農家及びその家族です。

気候変動に関するパリ協定で地球温暖化を抑制するために集団行動 (collective action) のための基金 (foundation) が設立されました。エチオピアの気候耐性緑化経済 (Climate Resilient Green Economy) 計画は、2011 年に開始したプログラムですが、これはエチオピアが主要なグリーンガス排出者に、夫々違った形で責任ある行動を促すというもので一つの対策例です。こうすることで農業と林業を気候変動の被害から守ろうという試みです。この計画の中で、我々は輸出金額の 24% を稼いでいるコーヒー産業を気候変動の被害から守るために精力的に行動しています。

しかし、気候変動被害を軽減する努力は政府と生活が脅かされている小農家のみが行っているわけではありません。コーヒー輸出業者、加工業者、小売業者などもコーヒー農家を気候変動被害から守るために支援する責任を負っています。気候変動と一緒に戦うのは、我々すべての共通の利益だからです。従い、この会場にいる全ての人に、悲惨な影響を被ることになるだろう気候変動に対応できるコーヒー産業を創造するために協力することを呼びかけたいのです。

経済的な不平等及び気候変動だけがコーヒー産業の脅威ではありません。世界のコーヒ

一生産者にとっては、世界のコーヒー価格の乱高下（volatility）は大きな問題です。もともと利益が薄い小農家にとって事態はさらに深刻です。小農家にとっては、コーヒー価格の下落は四半期の利益が減ったというようなものではなく、彼らの家族を食べさせ、養うことが出来なくなるということを意味しています。

私はこの会議で、コーヒー産業にかかわる全ての人の将来が確かなものになるような安定した世界コーヒー市場が醸成されるような解決策が見つかることを期待しています。

コーヒーには多くの問題がありますが、我々が直面しているいくつかの問題を一緒に解決できるような新たな地平線も目の前に広がっています。すでに我々が署名しているアジスアベバ行動アジェンダ（The Addis Ababa Action Agenda）、国連の持続可能開発目標（the Sustainable Development Goal）、最近締結されたパリ気候協定（Paris Climate Agreement）等はコーヒー産業に影響を及ぼしている問題を解決するためには非常に重要な枠組だと思います。

第4回世界コーヒー会議は、このような過去に例を見ない経済的、社会的、環境的、政治的な枠組の中で開催されています。私はこの会議からコーヒー産業を安定させるような具体的な提案が出てくるものと確信しています。そのような提案がコーヒー産業を対象とした国レベルの計画（program）や戦略を実りあるものにするためには重要なのです。例えば、我が国の5か年成長・変革計画の一部をなすコーヒー部門開発戦略はこの会議の成果から多くのものを学ぶことが出来ると期待しています。

私はこの機会にエチオピアが小農家、加工業者、輸出業者、小売業者などコーヒー産業にかかわる世界の全ての人たちがもっと利益を得られ、持続可能なコーヒー産業を創造することを約束します。

終わる前に、国際コーヒー機関（ICO）及び農業・資源省（Ministry of Agriculture and Natural Resources）に対しこの会議を準備してもらったことに御礼申し上げます。また、地方のコーヒー輸出業者協会を含む全ての国内関係者にこの重要な会議実現のために協力して頂いたことに謝意を表します。

最後に、皆様がエチオピア国民の温かい歓迎の気持ちを表す伝統的なコーヒーセレモニーと共にエチオピアの新鮮なコーヒーを楽しまれることをお勧めします。ここにご参加の全ての人にとりこれから2日間の討議が実りあるものとなるよう祈念申し上げます。有難うございました。

以上

第 116 回 IC0 理事会でチーフエコノミストの Denis Sedieu 氏が発表した内容です。

『アフリカ諸国の農村における世代交代問題』

I

1 多くのコーヒー生産国では小農家の担い手は高齢化しており、若い人たちは徐々に両親の後を継ぎコーヒー生産に従事する人が少なくなっている。しかし、一般的に両親よりは教育程度が高く起業家精神 (entrepreneurial) が強い傾向のある彼らだからこそ農業部門を変化させる可能性があると思われる。例えば、若い人たちは技術革新や新しい農法の受け入れには柔軟であり、これはコーヒー部門の生産性を向上させる為には不可欠な要素である。特に気候変動などのようなコーヒー部門が直面する新しい問題を考える上では重要なことである。故に、コーヒー業界では若い世代の人たちがこの業界にいとなくなると高品質コーヒー供給に悪影響を及ぼすのではないかと懸念している。

2 農村地域における世代交代について多くの文献があるが、これまでコーヒー部門に特定された研究論文はなかった。この研究の目的はまず存在する事実を再検討し、主要なアフリカサブサハラ諸国のコーヒー産業について発見された事実について考察することである。

3 この研究は、一般的な農業、特にコーヒー生産が農村や都市におけるその他の代替職業に比べ魅力的とは言えない現在及び将来の経済的、社会的な要因に焦点をあてた。近代農業への変化を促進するために若い人たちが果たす役割の重要性について考察している。また若い人達にとってコーヒー産業が魅力的なものになるために必要なステップ及び他の農業部門から学べたことについて考察した。

II サブサハラアフリカの人口及び経済の変遷

4 アフリカ大陸は現在、人口成長率が世界で最も高い地域の一つであり、人口動態変化の激しい地域である。2050 年までにその人口は倍増し、将来の世界総人口の 25% に当たる 25 億人に達する見通しである (2015 年、国連資料)。アフリカ諸国は人口成長率が最も高いだけでなく若者の人口比率が最も高い (30 才以下の人口比率が 70% を占める) 地域でもある (2008 年、UNICEF)。1960 年代以降から都市化の波が押し寄せており 2030 年までには 3 分の 2 以上の人口が都市もしくは都市近郊に住むようになると予測されている (2014 年、国連)。

5 アフリカ大陸においては顕著な人口動態変化以外に、過去数十年に亘る著しい経済発展も見られる。世界銀行のデータによると、2005 年から 2014 年の間、GDP は年平均 10.7%

成長しているが、これはこれ以前の 10 年に比べ高い数字である。エチオピア、タンザニア及びウガンダの過去 5 年間の成長率は 5～10%である。経済成長はここまで、その他の大陸で見られる工業化（industrialization）を伴わない形で実現されてきた。また経済の特徴としては、例えば農村及び都市労働者の 10 人中 9 人が所謂非公式職業に従事していることが示すように高度な非公式経済分野が存在することが挙げられる。サブサハラアフリカ諸国の GDP の 55%は所謂地下経済である（2013 年、アフリカ開発銀行）。結果として、経済成長は雇用の拡大には繋がっていない。特に若い世代の間では過少雇用状態や失業率が高い状況である（2009 年、世界銀行）。

経済は、天然資源の輸出以外に、未だ多くを農業に依存しており、世界銀行のデータによるとエチオピア、タンザニア、ウガンダに於いて農業は単体として最も重要な収入源であり、60%以上の労働力を雇用している部門である。

6 従い経済を発展させるには農業の継続的な戦略性が重要である。所得水準が上昇するにつれ国内需要は高付加価値傾向の農産品にシフトし、生産者にとっては新しい市場が開けることになる（2014 年、世界食糧機構）。同時に農産品に対する世界需要は確実に増えている。例えば世界のコーヒー需要は、もし現在の成長率が持続するならば 2025 年までには、現在の約 150 百万袋の需要に加え 35 百万袋増加することが予測されている。従い農業は、その他の産業が現在多くの構造的制約を抱える中で、将来の可能性を秘めた産業分野であると言える。

III なぜ農業に将来を託す若者が少ないのか。

7 農業部門には可能性があるにも拘わらず、若い人たちは農業の将来に興味を持たなくなっている。ある社会学研究によるとアフリカ諸国では農村に多くの人が住んでおり、農村住民は一般的に、農業は経済的報酬が低く労働集約的で機械化が進んでいないため重労働であると感じている。加えて農村では若い世代が社会生活で重要視している交通及び通信インフラが都市部に比べ劣っている。従い農村を基盤とする生活は、彼らの両親に比べ教育があり、またメディアや情報機器により都会の近代生活スタイルをよく知っている若者にとって夢のある生活とは言えないのである。

8 サブサハラアフリカの多くの地域において、農村の生活は多岐に亘っており、彼らの生活は農業のみに頼っているものではない。例えば農業以外の活動から得る収入により農作物の収穫や家畜飼育に必要な運転資金が賄われている。収入源を多用化することは、突然の異常気象異変に備えるなど危機管理上も重要なことである。また農村地域では農閑期の雇用機会は限られているので、都市部への季節移住がますます重要になっている。

9 移住を決める場合の主な動機は次の二つが混ざった（mixture）ものである。即ち農村において雇用機会が少ないこと（プッシュ要因）及び都市部の労働需要の存在（プル要因）である。プッシュ要因は主に農村部の貧困層について当てはまることで、彼らは農業やその他の地域活動を通じて生活を維持する能力がないためである。一般的に平均的若年層は両親世代に比べて義務教育卒業率は高く、創業者精神にも富み有利な立場にあると言えるが、融資及び土地取得に関して多くの制約要因が存在している。はっきり言うと、若者世代の金融知識はシニア世代に比べ劣後することが多い。また、耕作可能な土地が既に使用されている場合（耕作可能地が余分ない場合）、例えばエチオピアで見られるように、両親が農地の主な供給元となることが多い。人口成長率が高いこと及び親世代の持つ土地面積が狭いことから、相続や贈与で得られる土地面積はしばしば生計を維持するには十分なものとは言えず、結果として移住せざるを得なくなるのである。

10 これとは逆にプル要因は教育水準が高く土地もある恵まれた若者に言えることで、彼らは高額の給料がもらえる職を求めて移住するのである。プッシュ要因とプル要因が相互に作用しながら若い農村住人が都市への移住を決める重要な役割を果たすのである（2012年、世界銀行）

11 若者が村を去り都市に移住すると、村に残された住民の平均年齢は上昇することになる。最近世界銀行が発表した東アフリカ（エチオピア、タンザニア、ウガンダ）コーヒー生産国のデータによると、農村地域平均世帯の家長の年齢は都市部に比べ高くなる傾向がある（表1）。資料は夫々3ヶ国の典型的な人口サンプルを基礎としたもので、特にコーヒー農家についても調査されている。コーヒー農家の年齢について、その他の農家に比べ構造的な違いがあるかどうかということも検証されている。調査の結果はミックスされたものである。即ちタンザニアとウガンダではコーヒー農家世帯の家長の年齢はコーヒー以外の農作物生産世帯に比べ平均して5～6才高いが、エチオピアでは余り差異が見られない。この事実から判断すると、慎重にはあるが、コーヒー生産農家はその他の農作物生産農家に比べ高齢化現象がより顕著に表れていると言えるだろう。

表1 アフリカ3ヶ国の農村及び都市部世帯の家長の年齢

国	都市		農村（その他作物）		農村（コーヒー）	
	対象（人）	年齢（才）	対象（人）	年齢（才）	対象（人）	年齢（才）
エチオピア	691	44.05	2102	46.42	923	46.68
タンザニア	1786	42.34	2988	46.61	230	51.29
ウガンダ	549	44.98	1751	45.05	496	51.09

資料：世界銀行

1 2 多くの研究で農村の若者が農業に興味を示さなくなる傾向にあることを指摘しているが、農業への印象が改善されているとの内容の研究報告もある。例えば 2012 年に発表された Tadele and Ayalew レポートによるとエチオピアの農業部門では農業の近代化が進み生産性が上がり、農村世帯の生活水準が向上しているとのことである。また、この結果、農業部門への印象が改善している。これは農業やコーヒー生産の経済的報酬の増加が社会的ステータスと、ひいては生活としての農業選好に緊密に関係しているということを裏付けている。

IV コーヒー農家の高年齢化が意味するもの及びコーヒー産業における若年世代の価値

1 3 農業の経済的報酬が少ないこと及び社会的ステータスが低いという理由で、農村の若者たちがコーヒー以外の別の選択肢を求めるというのは驚くに値しない。しかし、若い人たちが農業（コーヒー）及び農村地域の将来性に興味を失うと、コーヒーを含む農業分野の発展に悪影響を及ぼすことになるだろう。

1 4 若い人たちは変化を起こすために重要な役割を果たす。若者が技術革新を受け入れ新しい生産技術を完成する傾向があると指摘する文献は数多く存在する。理由としては高齢の農民に比べ若い人たちは一般的にリスクを恐れない傾向があるということが挙げられる。また若い人達は投資コストや修学費用を長期間かけて償却することが可能であり、これは特にコーヒーのような結実までに時間がかかる果木作物にとっては重要なことである。

1 5 結果として、若者が変化の担い手（Catalyst）として不在の場合、その分野の変化は遅々として進まなくなる。新技術の採用が遅れると、経済的に非効率な結果をもたらす。革新的な技術が早く広まる場合に比べると、遅れた場合にはその分野全ての生産性が落ちるのである。これはコーヒーについてのみ言えることではなくその他の分野でも経験されている（例えば、カメルーンやガーナのココア分野）。生産性の低い農園は、農業の戦略的重要性を考えた場合、農村の経済発展全般にわたり悪い影響をもたらす存在となる。

1 6 新たな問題が発生しているときに新技術の受け入れが遅れた場合には、事態をさらに悪化させる可能性がある。革新できる能力は、気候変動の影響がコーヒー生産の脅威としてより見える形で表れている時には、さらに重要になってくる。なぜなら、温暖化、疫病、頻繁な気象異変などについては農園単位での個別対応が求められることが多くの研究でわかっているからである。農家は変化する環境に対処するために、新しい、より抵抗力のある品種を植え、斬新な農業経営を採用するなどの新技術を取り入れることが求められるのである。これができるのはより教育水準の高い若年農家である。

V 世代交代の問題にいかに対処すべきか、またコーヒー分野でどのようにして若者の就業率を上げられるか。

1 7 殆どの農業分野 (sub-sector) で同じような世代交代問題を抱えている。農業全般について、また特にコーヒー分野への若者の参入を促すには生活環境 (livelihood strategy) における魅力を高めることである。即ち、収入の水準が若い農家が自分自身及び彼らの子供の将来に投資できるものでなければならない。もしこれが実現されるなら農業への就業は若い都市住民にとっても選択肢の一つになりうるだろう。

1 8 この観点から、その他農業や非農業部門に比べ、コーヒー生産における経済的実現可能性を高めることが必要となってくるのである。長く放置されてきた農業の制約要因を解決し農村地域の経済環境を改善する必要がある。同時に必要であれば特に若い人たちが大きく不利益を被っている要因については特別な注意を払う必要がある。

1 9 具体的言えば、市場や情報へのアクセスが簡単にできるようにするために、地方の交通網や情報インフラを改善することだが、これが改善されれば小農家の利益に直接結びつくことになるだろう。さらに農業の研究開発、例えば気候変動に適応可能なコーヒーの品種の研究 (2000 年、Alston の著書によると経済的見返りは 40~60% 改善するという) 等への公的基金の在り方も見直すべきである。さらに農村に於ける公共機関の活動は往々にして弱い市場効率を高める為には強化する必要がある。

2 0 また、農村地域で優れた環境にある学校で、基礎学力を向上させることが求められるが、そこでは農業の価値を強調する教育を施す必要もある。農業技術水準は、公機関が技術指導を効果的に行い、先進的な生産方法を教えて引き上げる必要がある。

2 1 更に、若者は銀行から融資を受け難い状況にあるので、融資を受けられるようにすべきである。近代農業には投資は不可欠であり、若者が金融知識 (financial literacy) を学べるようなプログラムを企画することは近代農業への重要なステップである。投資サイクルが長いコーヒーのような果木作物にとっては、農家が先行投資コストを負担できる手段を持つことが価格変動の影響を少なくする戦略とともに重要である。

2 2 最後に、若い人たちが土地を入手できるようにするために、農地の相続を容易にしたり、土地の効率的な賃借市場を作る必要がある。例えばコロンビアでは効果的な社会政策がない場所では民間イニシアティブが老齢農家を支援し、彼らが適当なタイミングで退職し若い世代に土地を継承できるように手を貸しているところもある (2014 年、The Guardian)。

VI 結論

2 3 殆どの国で農業は国の戦略的産業であり、多くの負の制約要因が存在し、それらが生産性を低くし、結果として収益性を下げているのである。農業収入が大きく振れることは農業の社会ステータスが低くなることを意味しており、特により教育水準が高いまた企業家傾向の強い若者にはそう映っている。

2 4 このような実情を見ると、農村に住む若い人たちにとって農業が生活手段として魅力に欠けるものであるということは驚くべきことではない。しかし、農業に興味をもつ若者が少ないということは農業の将来に負の影響を与える。農村地域を変え近代農業に導くために若者は重要な役割を果たす。東アフリカ3ヶ国のデータによると都市部の住人の平均年齢は農村部の住人に比べ若いということが分かった。またコーヒー農家世帯の家長の平均年齢はその他の農村地域人口に比べ高齢である。従い、世代交代問題は農村地域の一般的な問題のように見えるが、コーヒー部門において農家の高齢化が及ぼす影響は更に深刻だと言える。この人口パターンの背後の問題を特定するために更に詳しく調査する必要があるだろう。

2 5 生活手段を獲得する方法としての農業の相対的な魅力を高める為には、農業の生産性を向上させること、即ち経済的見返りを増やすことを考える必要がある。インフラ投資、技術の向上、融資及び土地の入手手段などで農業を手助けするための環境整備を行う必要がある。他農業に比較しコーヒー農業の相対的な生産性を上げ、魅力を増やすためには、果木作物であるコーヒーの問題を解決する明確な対策を講じる必要があるだろう。

以上